



1		目	次
	新年のご挨拶	2	「第17回 腎臓病教室」を開催して 9
	医局紹介 循環器科	4	2019年 クリスマス会 ~聖なるホワイトクリスマス~… 10
	多機能型事業所「ひだまり」開設について	5	心ばかりの食のクリスマスプレゼント 11
	医療安全相互チェックを受けて	6	ボランティアさんのご紹介
	中2病棟 ハロウィンパーティー	7	地域医療連携室だより
	おしらせ「NHO PRESS」	7	作品展「和~るど」 13
\	第73回国立病院総合医学会に参加して	8	職場紹介
- \			/

理

念 私たちは、常に研鑽し、患者さまのために最良の医療を提供します

基本方針 1.患者中心の医療 2.患者の権利と尊厳を守る 3.政策医療の推進 4.地域医療への貢献

5. 最良・安全医療の提供 6. チーム医療の推進 7. 経営基盤の確立

患者さまの権利

1. 良質で安全な医療を公平に受ける権利 2. 十分な説明を受け、質問する権利

3. 自分で医療の内容を決定する権利 4. プライバシーを保護される権利 5. カルテ開示を受ける権利 6. セカンドオピニオンを受ける権利 7. 臨床研究への参加と拒否の権利



## 新年のご挨拶



院長 後 藤

謹んで新春をお祝い申し上げます。

皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこと とお慶び申し上げます。

昨年は西別府病院に対しご高配を賜りましたこと厚 く御礼申し上げます。

令和へ改元した昨年は大きな節目の年となりました が、昭和から平成の改元の頃のことを思い起こされた 方も多かったのではないでしょうか。あれから30年 有余年、月日が経つ早さを実感しましたが、一刻千金 の思いを胸に仕事や生活に向合わねばと改めて考えま した。

令和元年は台風・洪水災害、消費税10%への引き 上げなど大きな出来事がありました。医療に目を向け れば、9月には地域医療構想推進の一貫として再検証 対象病院として424の公立、公的病院を公表されまし た。公表は医療関係者のみならず地域社会全体の問題 として関心や議論を生み、「風評被害」とも称される 反応にまでつながる始末でした。公表については様々

な議論があると思いますが、地域医療構想の必要性や 目指すところは異論のないところだと思います。

翻って当院の状況をみますと、令和元年度は入院患 者数の減少により、病院収支は非常に厳しい状況です。 病院が提供する医療サービスの良否や医療サービスの 需要は病院収支のみで評価されるものではありません が、大きな指標であることは間違いありません。その ため令和元年は、当院が地域から求められている医療 サービスは何か、今後どのような医療サービスを提供 していくべきか、地域医療構想に沿った当院の将来計 画を再検討する機会ともなりました。

これからも、大分県や二次医療圏の医療需要に基づ いて、地域から求められる良質な医療サービスを提供 し、あわせて人材育成、経営基盤の確立に努めるとと もに、職員にとって、安全、安心で、働きがいのある 職場とすることを目指します。職員全員の力を結集し、 実現に取り組む所存です。

令和2年が皆様にとって、より良い1年となること を心よりお祈りするとともに、これからも当院へのご 支援、ご指導を引き続き賜りますことをお願い申し上 げ、私の新年のご挨拶とします。

令和2年元旦





副院長 政 英

謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに旧年中 のご厚誼に心より感謝申し上げます。

昨年は、平成最後の年であると同時に新元号「令和」 の開始年でもあり、新天皇即位に関連した華やかな国 民的行事に彩られた門出の年であったと言えるでしょ う。

当院では、新年度より地域医療連携および病床管理 のシステム見直しを行いました。従来、地域医療連携 室と病床管理委員会とは別々の組織として稼動してき ました。そのため地域医療連携室スタッフは複数の関 連した会議に出席しなければなりませんでした。会議 の一元化を図るために、新たに「地域連携病床管理カ ンファレンス」を週1回開始し、関係職員が病診病病 連携、短期入所、病床管理、ならびに待機患者情報に ついて意見を交換し調整するという取り組みを始めま した。

参加メンバーは、副院長、副看護部長、神経内科部 長、小児科部長、病棟師長、経営企画室長、療育指導 室長、地域連携室看護師、ならびにMSWで、必要に 応じて他の職員にも出席してもらうことになっていま す。この取り組みにより病診病病連携が円滑となり入 院患者数増加につなげることができました。なにより も関係職員が一堂に会することで業務上の問題点を全 員が共有し、意見することができるようになったこと が大きな収穫であったと言えます。

10月には九州グループの指導の下に宮崎東病院と 2病院間で医療安全相互チェックが行われました。約 半年間の準備期間中に問題点を検討することで医療安全体制の現状を再確認することができました。また、病院間で意見交換することで安全対策の質的向上と標準化を実感することができました。

本年10月には、第46回日本重症心身障害学会(学 会会長:後藤 一也 西別府病院長)の主催を控えて おり、職員一同新たな気持ちでチーム力を発揮したい と考えております。引き続きご支援のほど何卒宜しく お願い申し上げます。新しい年が皆様にとりまして良 い年となるようお祈りいたします。





謹んで新春のお慶びを申し上げます。

今年度も残すところ3ヶ月余りとなりました。昨年の4月に着任して経費削減等を含め経営改善・収支改善に努めてきましたが、「令和」の初年度においては、大幅な赤字運営は免れない状況にあります。しかし、新たな時代のスタートからつまずいたと思わず、ここをゼロとしてこれから右肩上がりの経営に向けて、当院が担っているセーフティーネット系医療を安定的に提供する診療体制の強化は勿論、加えて大きな改善(変革期)も必要となりますが、経営基盤の安定化を図っていきたいと考えます。

今年は「子年」で、再び新しい十二支のサイクルがスタートする年です。例年同様ではありますが、この4月には各職場においては人事異動もあります。また、2年ごとの診療報酬改定(令和2年度)もあります。社会的には高齢化が更に進み、在宅医療のニーズも高まっています。これらが当院にとって"逆風"になるのか"追い風"とするのか、院長を始めとする我々幹部職員(経営陣)、そして管理者等職員の手腕が問われる年になりそうです。

私自身は、前回(1964年/昭和39年)の東京オリンピックの翌年に生まれましたが、今年(2020年)は約半世紀ぶりに東京で2回目のオリンピックが開催されます。世の中が様変わりしていく中、そして別府の街?も活気に溢れていく中、当院が取り残されていくことのないよう"ONE TEAM"となって頑張っていきましょう。今年もよろしくお願い申し上げます。

~信頼と団結・決断と実行~





看護部長 中尾とよみ

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、元号が平成から令和に変わり、即位の儀式 に伴う10連体や、様々な行事など、時代の大きな流 れを感じ、気持ちを新たにされた方も多かったのでは ないでしょうか。

昨年の西別府病院を振り返ってみますと、残念ながら経営状況は黒字化には至りませんでした。しかし、日々、地域から求められていることは何か模索し、地域医療機関との連携の強化や、在宅医療充実に向けた多機能型事業所「ひだまり」の開所などを行いました。令和2年も経営基盤の安定化を目指して、より一層、職員間で協力しながら、前を向いて進んでいきたいと思います。

ところで、2020年の干支、子は、十二支の始まりで、

2019年の亥年で結んだ種が、新たに芽生えて、いろいるな方向に育ち始める年だそうです。また、子の年は、さまざまなことが新しく始まる局面で、個人は、自分の軸となる価値観を持って進む年、組織は、新たな局面に対応できる人材の育成・活用に取り組むと良い年だそうです。

看護部は、昨年「看護を語る」をテーマに、自分たちの行っている看護を見つめなおし、自身の言葉で看護を語る「ナラティブ研修」に取り組みました。自部署で、仲間の前で看護を語る事で、思いを共有し、やりがいを実感でき、新たな年へとつながっていくことを期待しています。看護の理念でもある「人間の生命と尊厳を尊重し、安心と信頼に応える質の高い看護」を実践できるよう、今年は看護部全体で教育計画の見直しを行い、人材育成にも力を入れていきたいと思います。また、働き方改革による勤務時間管理や業務改善など、病院全体で取り組むべき課題が山積していますが、職員一同、力を合わせて取り組んでいきましょう。本年も、どうぞご協力よろしくお願い致します。

#### 原 政 英 循環器科(副院長)

#### I.診療の特色

循環器科では、急性期病院との連携のもと、主として亜急性期 ならびに慢性期心血管疾患の診断と治療を行っています。なかでも 慢性心不全の心臓リハビリテーションは多職種チームとして取り組 んでおります。急性期治療終了後も加齢や低栄養により自宅や施設 への退院に時間を要する患者様を対象とした診療に注力していま す。生活習慣病改善外来では心疾患の背景にある危険因子の早期診 断治療を行っています。さらに循環器疾患と深く関連した睡眠時無 呼吸症候群の診療を行っています。

#### Ⅱ. 主な診療内容

#### 1. 心臓リハビリテーション

急性心筋梗塞、狭心症、開心術後、大血管疾患、慢性心不全、 末梢動脈閉鎖性疾患を対象として心大血管リハビリテーションを実 施しています。特に慢性心不全については左室駆出率40%以下ま たは最高酸素摂取量が基準値の80%以下、またはBNP80pg/mL以 上の患者様を対象としており、当院での心臓リハビリテーションの 大半を占めています。2013年には3階に運動療法室を開設して、よ り充実した環境で心臓リハビリテーションを行えるようになりまし た。心大血管リハ施設基準(I)を取得しています。また心臓リハ ビリテーションを開始するにあたっては、心肺運動負荷試験 (CPX) を実施して個別の運動メニューを作成、有酸素運動、ストレッチン グ、レジスタンス運動を行っています。下表に示すように、2019年 度上半期は昨年に比して入院外来ともに心臓リハビリテーション件 数は増加しております。

#### 2018年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院件数	107	86	97	101	185	99	79	23	11	75	87	111	1061
入院単位数	200	152	202	218	367	228	175	60	24	150	176	236	2188
外来件数	66	74	98	93	93	77	102	101	91	97	96	111	1099
外来単位数	66	74	111	107	103	85	114	107	109	117	112	131	1236
合計件数	173	160	195	194	278	176	181	124	102	172	183	222	1938
合計単位数	266	226	313	325	470	313	289	167	133	267	288	367	3057

#### 2019年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
入院件数	197	128	175	148	182	248	92	1170
入院単位数	413	271	390	334	488	601	217	2714
外来件数	101	42	104	106	78	87	95	613
外来単位数	123	79	162	161	114	141	171	951
合計件数	298	170	279	254	260	335	187	1783
合計単位数	536	350	552	495	602	742	388	3665

#### 2. 心血管検査

2015年に2D·Live3D超音波診断装置(EPIQ7, PHILIPS)を導入し心臓 超音波検査、血管エコー検査を施行しています。その他、ホルター 心電図検査、心肺運動負荷試験、血管内皮機能検査、ABI·PWV検査、 睡眠ポリソムノグラフィー (PSG検査)等を行っています。

	2019年3月~2019年9月
心臓エコー	507 例
頸動脈エコー	15 例
下肢血管エコー	13 例
ホルター心電図	179 例

#### 3. 睡眠時無呼吸症候群

睡眠時無呼吸症候群は近年広く認知されるようになってきまし た。しかし糖尿病や心疾患・脳血管障害などの患者様の中には潜在 患者が多いと考えられます。当院ではいびきや日中の眠気を訴えら れて受診された患者様にセファログラムやPSG検査を行い、その原 因を診断・治療するとともに、生活習慣病の合併についても積極的 に診断・治療を行っています。歯科医によるマウスピースの導入が 可能です。

#### 4. 生活習慣病改善外来

生活習慣病を早期診断し、合併症としての血管病を予防し改善す ることを目的とした生活習慣病改善外来を開設しています。循環器 医師を中心に看護師、管理栄養士、理学療法士が患者様の生活習慣 病の改善を目指します。生活習慣病の予防・改善には、まず現在の 健康状態をしっかり把握することが必要です。問診(身長・体重・ BMI を含む) と診察の結果に基づき、担当医師がその後の検査や治 療の進め方についてご提案します。初診時には通常、検尿・血液生 化学検査・血糖・HbA1c・血液流動性測定・心電図・X線検査など で病状を把握します。その結果、合併症の疑いがあれば、心エコー・ 血管内皮機能検査・インボディ・頸動脈エコー・ホルター心電図な どで血管病変や心疾患の有無について検索します。

#### 5. 外来診療体制 (2019年4月~)

診療受付 8:30~11:00	月	火	水	木	金
循環器科 生活習慣病 改善外来	宮崎 初: 再診	麻生 初診 再診	原 初診 再診	宮崎 初診 再診	初診 麻生 再診 天田 (非常勤)



H25年に開設したリハビリ室 (3階からの眺めが最高です)















負荷試験CF



## 多機能型事業所 「ひだまり」開設について

#### 療育指導室長 大 木 一 弘

西別府病院では、平成19年に日中一時支援事業所「ひだまり」を開設し、地域生活支援事業(日中一時支援事業)の提供を行ってまいりましたが、病院目標として掲げている「地域・在宅医療への貢献」に向け、令和元年12月1日より「指定生活介護事業、指定放課後等デイサービス事業及び指定児童発達支援事業」の多機能型事業所「ひだまり」を開所いたしました。

主たる利用対象者は、重症心身障害児・者ですが、 医療的ケアを必要とされる方も利用可能です。当事業 所では、常勤看護師を3名配置し、利用者の健康管理、 家族からの相談等にも応じますので、安心してご利用 いただけます。多機能型事業所「ひだまり」では、落 ち着いた環境のなかで日中活動を提供し、継続した在 宅生活が送れるよう支援いたします。 また、日中活動の内容については、多機能型への移行に向けて実施した利用者家族へのアンケートの中でニーズが高かった「入浴サービス」、「口腔ケア」、「リハビリ」を提供することでサービスの充実を目指しています。

開所当日(12月2日(月))には、利用者や家族の 方々、病院職員に多数出席いただき、多機能型事業所 「ひだまり」の開所式を行いました。今後は、他の関 係機関とも連携を図り、利用者の皆様が安心して地域 で生活を送れるよう努めていきたいと思います。

なお、日中一時支援事業も継続して行っていますの で、利用希望の際は、ご相談ください。





事業所名:多機能型事業所「ひだまり」

サービスの種類:指定生活介護、指定放課後等デイサービス、指定児童発達支援

サービス提供日:月曜日から金曜日(ただし、国民の休日及び12月29日から1月3日までを除きます)

サービス提供時間:午前9時30分から午後3時30分

その他:食事提供あり、入浴あり(毎日実施)、すべてのサービスにおいて送迎なし

※食事と入浴の利用料金は、利用者自己負担となります。

## 医療安全相互チェックを受けて

#### 医療安全管理室長(副院長) 原 政 英

医療安全対策の標準化を目的として開始された「医療安全相互チェック」は、複数の病院間で医療安全の現状を評価し意見交換を行う取り組みです。今年度の相互チェックは10月4日、九州グループの指導の下、当院が受審するという形で宮崎東病院と2施設間で行われました。チェック項目は数ヶ月前に配付され、リスクマネジメント部会を中心に関連部署と協議し院内全体の自己評価を行いました。その結果に基づき受審までの期間、部署毎に必要な対策を検討しました。

今年度の特徴として療養介護病棟を有する慢性期病 院相互で行なわれた点があげられます。評価項目は前 回に比して200項目以上追加され、より質の高い診療 を目指す内容でした。当日は、項目に沿って現場スタッ フからの聞き取りと意見交換を主体とした評価が行わ れました。両病院に共通の課題が明らかになっただけ でなく、他院の取り組み状況を知る良い機会となりま した。

受審の結果、ハリーコールおよびホワイトコール、 虐待防止に関する取り組み、感染管理、薬剤師オンコール、放射線部門における体内金属の確認、画像診断見落とし防止、リハビリ部門での骨折防止への取り組み、 栄養管理部門での非常時対応、ならびに医療機器の管理等について高い評価をいただきました。一方では、 数点の見直しが必要とされ、改善に向けて取り組んでおります。今後もこうした病院間での相互評価の機会を積極的に利用し、自院の医療安全の質的向上に向け努力したいと考えます。









中2病棟看護師長 帯 刀 佐智代

中2病棟では、小児科で入院している腎疾患・糖尿病などの慢性疾患や肥満・不登校などの患児に対し規則正しい生活習慣に向け支援しています。

その行事の一つにハロウィンパーティーがあり、今年は10月29日に開催しました。

ネコやプリンセス、魔法使いに仮装した子どもたちが、医局・看護部長室・石垣原支援学校を練り歩き、 声をそろえて「トリック・オア・トリート」と元気よく言ったあとに、医師や看護部長、支援学校の先生た ちからお菓子や文房具をもらい盛り上がりました。

入院し、治療を頑張っている子どもたちにとって、この日だけは特別とし、とびっきりの笑顔で普段食べられないお菓子をうれしそうに食べる姿がほほえましく、楽しいひとときを過ごすことができました。 今後も、子どもたちに喜ばれる行事を継続していきたいと思います。





#### おしらせ



## 国立病院機構通信 PRESS

西別府病院は、国立病院機構(NHO: National Hospital Organization)という141の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構(NHO)という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS ~国立病院機構通信~』を発行しています。当院では外来に設置していますので、ぜひご覧になってください。なお、ホームページに最新号と過去のものを掲載して

いますので、そちらもぜひご覧になってください。 「NHO PRESS」で検索してください。

**NHO PRESS** 

検索





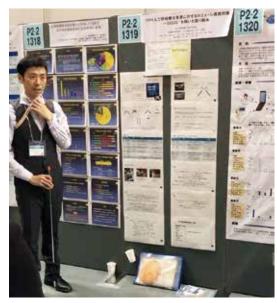
## 第73回国立病院総合医学会に参加して

#### 薬剤部長 鈴 田 浩 孝

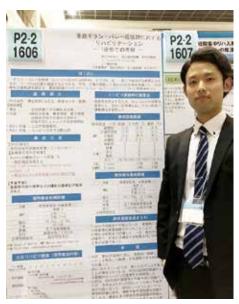
令和元年11月8日から11月9日にかけて愛知県名古 屋市名古屋国際会議場において「第73回国立病院総合 医学会 | 令和における国立医療の挑戦~明日は変えら れる~というテーマで令和になって初めての総合医学 会が開催されました。国立病院総合医学会には、全国 の国立病院機構病院・ナショナルセンター・ハンセン 病施設の医師・看護師・医療職・事務職など数多くの スタッフが参加して日頃の取り組みや研究成果、今後 の課題などについて数多くのシンポジウムやポスター 発表があり、どのセッションにおいても活発な質疑応 答・意見交換がおこなわれました。西別府病院からは 4題の口頭発表と7題のポスター発表があり、「TPPV 人工呼吸療法患者に対するカニューレ逸脱対策~ SASAEを用いた取り組み~」を発表された主任臨床工 学技士阿部聖司さんと「重症ギラン・バレー症候群に 対するリハビリテーション~1症例での考察~」を発 表された理学療法士稲葉塁希さんがベストポスター賞 を受賞されました。

私は、第51回全国薬剤部課長協議会総会・研修会か ら参加し、山口大学病院薬剤部を退官され現在は、医 療安全システムデザイナーである古川裕之先生の「薬 剤部門管理者に必要とされる医療安全の知識とスキ ル |・「報道事例から学ぶ安全管理し必要な新たな視 点~薬のリスクから患者を守る!!~」を拝聴しまし た。講演の中では、昨年度機構グループ病院でおこっ た休薬を必要とする薬剤での医療事故に対して今後こ のような事故を起こさないための考え方や対応・方法 などについて紹介されました。薬剤師部門のシンポジ ウム「未来につなげる薬剤師の育成~薬剤師教育の実 践~」、薬剤師業務の質の向上の聴講や薬剤部門のポ スター発表を主に見て回りました。薬剤師の育成では、 各ブロックの薬剤師育成プログラムについて発表され ました。また、薬剤師業務の質の向上では、薬剤師術 前薬剤師外来の導入や薬剤師外来での術前薬を管理す ることで効率的に薬剤官指導業務が実施できている実 態や院外処方箋の疑義照会の簡素化への取り組みなどとても参考になりました。夜は、他施設の薬剤師たちと名古屋飯の手羽先、味噌カツ、どて煮、味噌おでんをおいしくいただきながら情報交換を行いました。

最後に、日常業務多忙のなか日頃の取り組みや研究 を発表されたみなさまお疲れ様でした。



阿部主任臨床工学技士



稲葉理学療法士

## 「第17回 腎臓病教室」を開催して

#### 経営企画室長 吉 村 和 明

毎年行われている当該教室も今年で17回目を迎え、去る12月6日(金)、当院のカンファレンス室において開催され、 腎臓病(小児)の患者さんやご家族、学校の養護の先生など、17名の方にご参加いただきました。

今回も例年同様に腎臓専門医を中心に各職種からメンバーを集め、医師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士といったスタッフが、それぞれの専門的な知見を活かして、腎臓病の治療法や患者さんに求められる生活習慣について合計約3時間の講義を行いました。

前半は、2名の腎臓専門医、薬剤師による講義が行われました。腎臓専門医からは腎臓病の勉強ということで、①腎臓って何?②腎臓病の症状③腎臓病の検査④いろいろな腎臓病⑤腎臓病の治療について、子供でも理解出来るように専門的な言葉は極力使用しないようにして講義が行われました。また、薬剤師からは「腎臓病低下時の薬の減量について」というテーマで①くすりの種類と体の中での動き②腎機能低下でくすりを減量する理由③くすりの安全な使い方の講義が行われました。

15分の休憩をはさみ、後半は、理学療法士、管理栄養士の講義が行われました。理学療法士からは「腎疾患と高血圧の運動療法」というテーマで腎臓病の患者さんには安静や運動制限より適正な運動が必要であることを強調した講義が行われ、管理栄養士からは「腎臓に優しい食事療法について」の講義が行われました。

腎臓に優しい食事のポイントとして減塩(1 日6g未満)が必要であるが、食品の中には以外と塩分が多く、料理を作るときや食事の際に 参考になったという意見がありました。

腎臓病の治療には長い期間がかかることが多いため、症状改善のためには普段の生活習慣を見直すことが大切です。この教室での講義の内容が、腎臓病で治療中の方やその周囲の方々に少しでもお役に立てれば幸いです。

#### 第17回 腎臓病教室



当院では今年も腎臓病教室を開催することとなりました。

腎臓病は数年から数十年という長い年月をかけて進行する病気です。発症・進行には生活習慣が大きく関わっており、腎臓病になる人は年々増えつつあります。最近ではさまざまな治療薬や治療方法ができましたが、病気がかなり進行しないと自覚症状が現れないため、早期の発見がとても重要となります。

腎臓病の治療には、医師や看護師、保健師、養護教諭、栄養士、学校関係者等、さまざまな職種の人々の協力が必要になってきます。また患者さんご自身にも、病気のことや養生法を積極的に理解して頂くことが大切です。

本教室では、日常生活において気をつけるべきことや、腎臓病の治療に用いられるお薬や検査について分かり やすく説明します。ご興味のある方はお気軽にご参加下さい。

対 象:腎臓病で治療中の方、そのご家族、学校検尿を取り扱う養護教諭 成人病検診センター職員の方々 など

開催日時:令和元年12月6日(金) 13:30~16:30

参 加費:無料(どなたでも参加できます)

場 所:西別府病院2階 カンファレンスルーム

#### 【プログラム】

13:30~14:00 腎臓の病気とその治療法 《腎職専門医》 慢性腎臓病(CKD)時の薬物療法 14:00~14:30 《薬剤師》 14:30~15:00 腎臓病と検診~早期発見・早期治療 《腎臓専門医》 15:00~15:15 ~休憩~ 《理学療法士》 15:15~15:45 腎疾患と高血圧時の運動療法 15:45~16:30 腎臓病に優しい食事療法 《栄養士》

☆キッズコーナーを設けていますので、お気軽にご利用下さい。

#### 【お問合せ】

独立行政法人国立病院機構西別府病院 (代表電話)0977-24-1221(FAX)0977-76-7231 担当 経営企画室(内線 750番)



### 2019年 クリスマス会 ~ 聖なるホワイトクリスマス~

#### 療育指導室 主任保育士 神 鳥 悦 子

療養介護の病棟において、今年もクリスマス会が開催されました。日程は12月11日(東4病棟)、12日(東3病棟)、17日(東2病棟)、18日(東1病棟)、20日(東5病棟)でした。テーマは「聖なるホワイトクリスマス」、これは神聖な雰囲気を演出したいとの思いからで、雪の結晶をイメージした手作りの飾りや花を添えました。

東3・4病棟では、プレイルームに集まった利用者さんやご家族の中心に置かれた燭台に、スタッフがひとつずつ灯をともし、最後にはたくさんのキャンドルの灯りに皆、厳かな幸せな気分になりました。クリスマスソングの演奏や全員参加型のゲーム、そしてサンタクロースの登場に会場も一気に盛り上がりました。

東1・2病棟では、一同に集まることが出来ないので、 各部屋で楽しめるような工夫をしました。今年の音響設 備はボランティアさんの協力を得て整えることができた ので、「今年は音がよく聞こえたよ。」との感想が聞かれま した。全員参加のクイズやサンタクロースからのプレゼ ントに病室から賑やかな声が聞こえていました。

東5病棟は、ご家族の面会が多く、病棟スタッフとともにアットホームな時間が流れていました。クイズ大会では、受持ち看護師さんが一問一問、利用者さんの意思を確かめながら答えていた姿が印象的で、後日ご家族より感謝の言葉をいただきました。

また今年は、ひとりひとりの希望に沿ったプレゼントを 用意させていただき、好評でした。意思の表出が難しい と思われる利用者さんには、ご家族や受持ち看護師さん の思いが込められたプレゼントが贈られました。

このように行事が行われた背景には、多くのボランティ アさんや多職種との連携があったからと実感しています。 ご尽力、心より感謝いたします。









## 心ばかりの食のクリスマスプレゼント

#### 栄養管理室 調理師長 末 金 正 孝

令和元年12月24日・25日、栄養管理室初の試みとして、 療育指導室とともに東病棟にて「クリスマス行事食を演 出するサービス」を提供いたしました。

その方法については、皆でアイデアを出し合い、栄養管理室と療育指導室のスタッフがパティシエやサンタクロース、トナカイ、クリスマスツリーに扮し、BGMを流しながら患者さんの目の前でクリスマスデザートに仕上げのトッピングを行うことにしました。

いざ本番、様々なコスチュームに身をつつみ患者さんのもとへ行き、デザートへトッピングを始めた時の患者さんの期待する表情(私たちは緊張しました)、仕上げたデザートを提供した時の患者さんの爆発するような笑顔に私たちは嬉しく、楽しかったです。

私たちもお店へ食事に行った時、目の前で料理を仕上げてもらえたらワクワクしますが、患者さんにその気持ちを少しでも味わって頂きたいという思いでした。

終盤、再度患者さんの所へ伺った時には、一緒に写真 に収まったり、質問を頂いたり、握手を求められたりと、 患者さんの気持ちを直接感じることができました。今回、 患者さんへクリスマスプレゼントを渡したつもりが逆に 患者さんから笑顔や元気を頂いたようです。

最後になりますが、協力して頂いた療育指導室の皆様、 病棟スタッフの皆様に感謝申し上げます。これからも食 で感動を与え続けられる栄養管理室でありたいと思って います。



準備の様子(末金調理師長)

The state of the s



いざ本番!



トッピング食材(いちご、キウイ、オレンジ、 りんご、チョコソース、粉砂糖 など)



クリスマスデザート(一例)



## ボランティアさんのご紹介

#### 療育指導室 保育士 藤 内 麻 美

当院のボランティアさんの受け入れは、20年以上継続され、昨年度は年間延べ686名で、個人が70名、団体が7団体539名でした。

活動内容は、裁縫、動物ふれあい、音楽、アロマ、絵手紙、書道や口腔ケアなどの専門ボランティアさん、また行事参加、日常生活支援やお話相手など多岐にわたっています。

日々、多くのボランティアさんが、直接的、間接的に利用者さんに関わっていただいています。今後も利用者さんのQOL向上を目標に、ボランティアさんが活動しやすい環境づくりを病院全体で行っていきたいと考えています。

#### 「あなたの笑顔がみたいから」

ミュージックボランティア: りんごの会

みなさん、こんにちは。私達は、大分市から訪問しています「りんごの会」です。最初に訪問した平成11年2月から、あっという間に20年の月日がたち、現在273回、歌詞を書いた模造紙は、800本ほどにもなりました。活動内容としては、春には花、夏には海や山、秋には月や星、冬にはクリスマスや雪といったテーマで、みなさんと一緒に歌ったり、トーンチャイムやオカリナ等のやさしい音色の楽器を演奏したり、入所者の方のお誕生日をお祝いし、好きな曲をリクエストしてもらい、みなさんの前で歌ってもらったりしています。また、立命館アジア太平洋大学(APU)の学生さんも参加してくれ、いろいろな国の歌や踊りを披露してくれました。こんなに長く続けてこれたのも、西別府病院さんがいつも気持ちよく受け入れてくれることと、何より入所者の皆さんが、いつも楽しみに待っていてくれることが励みになっています。

これからも、皆さんが笑顔になれるよう、心を込めて、 音楽をお届けできるように、訪問を続けていきたいと思 います。



#### 裁縫ボランティア「さわらび」

さわらび代表:市原和榮

西別府病院のボランティアで洋服の補正や修理が出来る事を知りました。私も62歳、30年ばかり洋服のオーダーをしてきましたので、喜んで入会しました。「さわらび」という会でした。会長さんは荒井会長さん、一目惚れしました。週1回の会合をして、それから一寸仕事して帰りました。人数は6,7人だったと思います。現在、その時の人たちはいません。私一人頑張っております。

会長の言葉で継続は力なりという言葉を守り つつ、現在になりました。自分乍ら良く続けたも んだと思います。

私も正月が来ると85歳、現在、人数も増えて14、5人になりました。私も良き友に逢えて身体に気を付けて頑張ります。さわらびの会員の皆さん、元気で頑張りましょう。

これからも感謝の心を忘れず、趣味を活かした人生であればいい。



## 地域医療連携室だより

医療社会事業専門員 牧 内 寛 弥

去る11月19日(火)、西別府病院第12回病診連携セミナーを開催いたしました。今回のセミナーのテーマは「なぜ食べ過ぎるのか? -食欲調節-」でした。講師は、当院の糖尿病・代謝内科部長である吉道医師が行いました。近隣の医師や医療機関の職員の方々、当院の職員も多数参加いただきました。

講義内容は、事例から始まり実際にどのような経過をたどったのか、セミナーのテーマでもある「なぜ食べ過ぎるのか」まで、とてもわかりやすく話しをしていただきました。行動療法の治療技法の一つであるグラフ化体重日記は、1日に4回の体重測定が必要にな

るそうです。1日4回の体重測定した細かいグラフを 視覚化し、そのグラフの変動を見ることで、自分がい つどんな食事をしてこの結果につながったのか、気が つくことができる仕組みとなっています。今まで気が つかなかった食事のクセやずれを認識してもらい、行 動を修正しながら体重減少を目指します。

参加者の方々は、熱心に講義を聞いており、講義終 了後の質問タイムでは、たくさんのディスカッション ができました。日頃の業務に活かしていただければ幸 いです。



会場の様子



原副院長による講師紹介



吉道糖尿病·代謝内科部長

## 作品展「和~るど」

療育指導室 保育士 神 鳥 由 香

10月1日~11月5日、病院玄関ロビーにて東1,2病棟の利用者様を対象にした作品展が開催されました。

毎年行われていたのですが、広報誌では初紹介となります。

外来に来られた方が待ち合い時間に鑑賞されたり、利用者様が自分の作品を鑑賞に 行かれたりとたくさんの方々が立ち止まり、眺めている姿がよく見られていました。

作品展の感想

作品展の場所に感想BOXを設置し、たくさんの感想をいただきました!





・皆さんの作品いつも感動をいただいてます! 是非とも来年も楽しみにしているので、頑張って下さいね! ・どの作品も作者の思いが伝わってきます。

・どの作品も作者の思いが伝わってきます。素敵な作品でした!!!

・幸せな恋も幸せな恋に。君に想えば・・・ですよね。 気づいたからこそ、ですよね。 幸せな恋が出来るって最高に幸せです。



# 瑞場紹介

西別府病院で働くスタッフを 毎回紹介しています。 この科はどんな診察をするの? この部署はどんな仕事なの?など 意外と知らない病院のこと 覗いてみませんか



当院の研究検査科は研究検査科長(医師)をはじめ、 臨床検査技師9名の職員で臨床検査業務を行っていま す。臨床検査というのは医師又は歯科医師の指示の下 に、生理機能検査および検体検査(微生物学的検査、 免疫学的検査、血液学的検査、病理学的検査、生化学 的検査、尿·糞便等一般検査、遺伝子関連·染色体検査) を行います。「臨床検査科の担い手として、常に探求と 考察を忘れず、正確かつ迅速な結果報告を心がけ、臨 床へ貢献します。」を理念に、基本方針として「1. 患 者誤認、検体取り違え防止、2. 研修会・学会等の積 極的な参加、3. 精度管理の向上・維持、4. 経営基盤 確立におけるコスト管理」を掲げ、臨床検査業務に取 り組んでいます。特徴は、臨床検査管理医による臨床 検査の管理、具体的には臨床検査の精度管理やパニッ ク値、病理報告書等の確認を行っていただき、安全で 質の高い臨床検査の提供を心がけています。また、ス ポーツ医学の検査や結核菌の検査が他の施設では実施 が少ない臨床検査を行える検査室です。そのため、有

名スポーツ選手の検査にも携わっています。その他の

分野では、循環器、呼吸器等の検査の機器は充実して

おりますので、ご利用いただければ幸いです。

(臨床検査技師長 米野 修一)



外来は、内科、小児科、生殖・遺伝科と3つのブースしかありませんが、当院は13の診療科(内科、呼吸器科、血液内科、循環器科、神経内科、消化器科、糖尿病・代謝内科、外科、脳神経外科、生殖・遺伝科、小児科、精神科(小児)、リハビリテーション科)を掲げており、生活習慣病改善外来、睡眠時無呼吸外来、頭痛外来などの専門外来もあります。2019年4月からは糖尿病教室を月2回(第2・4火曜)、定期開催しております。

スタッフは、リンパ浮腫センター担当者を含めた看護師15名で、10名が子育て真っ最中です。育児も大変ですが、全診療科で行われる検査・処置の介助、服薬指導、在宅療養の物品管理等、院内外の様々な職種と連携を取り、協力を得ながら外来看護を行っております。

患者様は近隣の方に限らず、県内各方面から通院されており、ご高齢の方も多くなっていますので、来院時の症状観察だけでなく、診察待ちの間に声をかけたり状況をお伝えするなど、目配り・気配りに心がけています。また、外来看護師は、患者様やそのご家族、来院された方が初めて出会う看護師です。「西別府病院を受診して良かった」「受診するなら西別府病院」と思って頂けるよう、患者様・ご家族に寄り添った看護の実践に努めていきたいと思います。

(外来看護師長 平野 美幸)